

第二期まち・ひと・しごと創生総合戦略実績報告書(令和7年度)【概要】

【基本目標1 まちの魅力を向上させ、新たなひとの流れをつくる】

1 数値目標

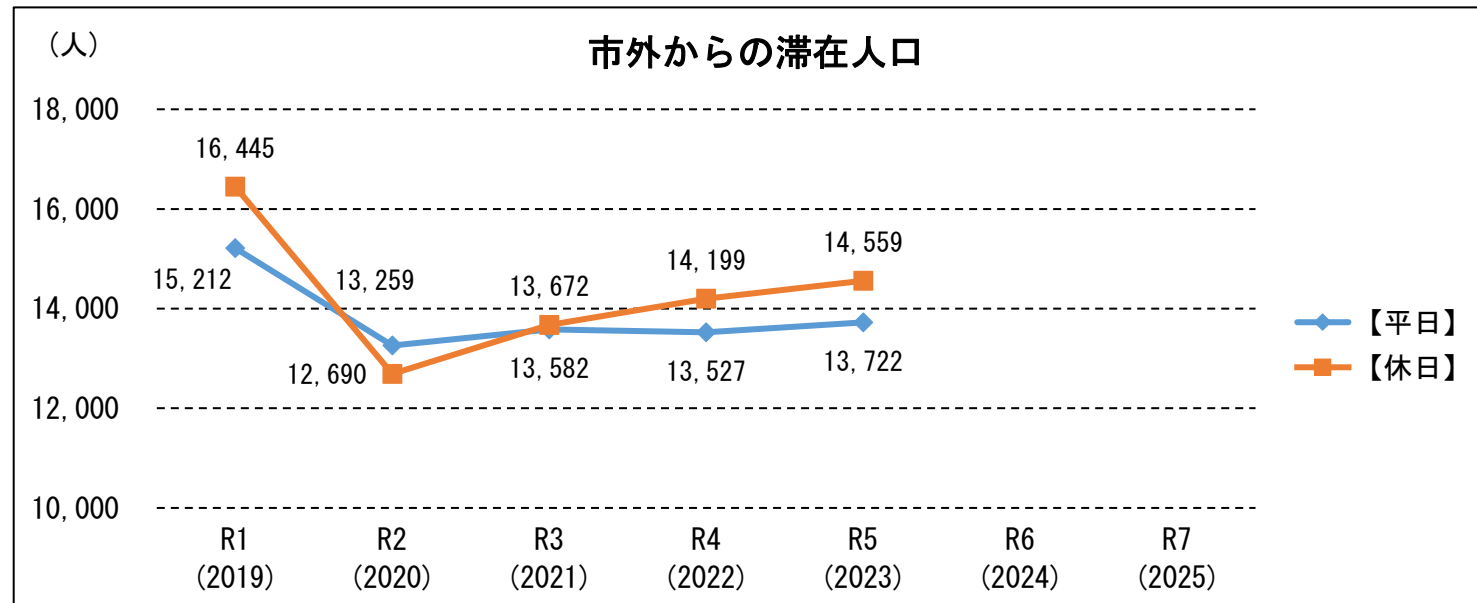
指標	現況値	R7	目標値 (R7)	評価
市外からの平日の滞在人口	16,660 人	— (*)	17,493 人	—
市外からの休日の滞在人口	16,951 人	— (*)	17,799 人	—

【指標の評価について】

- ◎：目標値達成（目標値以上）
- ：現況値超目標値未満
- △：現況値以下
- ：数値が判明していない等

※ 現況値：平成30年度

(*) 内閣府が提供する地域経済分析システム「RESAS」の全面改修により同様のデータが収集できなくなったため、数値は「—」としている。



2 具体的施策（7施策 25事業）

施策	評価					
	重要業績指標 (K P I)	主要要因 (C S F)				
		◎	○	△	—	計
戦略的な情報発信	△	0	3	1	0	4
創業を希望している市民への支援	○	0	1	1	0	2
産業の振興と雇用の促進	△	3	0	2	0	5
時代のニーズに対応する農業の創造	◎	1	1	2	0	4
個性豊かな観光施策の推進	△	2	2	3	0	7
利便性の高い公共交通網の形成	◎	1	0	0	0	1
にぎわいと活力ある魅力的なみち・まちづくり	◎	1	1	0	0	2
合 計	—	8	8	9	0	25

3 総論

【総括】

- 交流人口の増加の視点から施策を展開している。
- 数値目標に掲げる「滞在人口」については、内閣府が提供する地域経済分析システム「RESAS」の全面的な改修により同様のデータが収集できなくなった。また、代替となるデータの収集方法について、内閣府に確認したが、同様の数値を収集することはできないとのことであったため、数値は「―」としている。
- 現況値と比較すると、半数以上の事業が現況値を上回っている。

【施策別】

- 「戦略的な情報発信」については、SNS等の活用により、該当ページへの直接アクセスが容易になったことなどにより、KPIの実績値が現況値を下回った。
情報発信方法の工夫等により、現況値を上回った事業は3事業となった。
- 「創業を希望している市民への支援」については、KPIの実績値が現況値を上回った。
また、空き店舗等を活用した事業の推進を図り、1事業が現況値を上回った。
- 「産業の振興と雇用の促進」については、半数以上の事業が目標値を達成している。
- 「時代のニーズに対応する農業の創造」については、現況値を上回った事業は2事業となった。
- 「個性豊かな観光施策の推進」については、かたくりの湯の一時閉館により、KPIの実績値が現況値を下回っている。
- 「利便性の高い公共交通網の形成」については、KPIの実績値が目標値を達成した。
事業についても、昨年度の実績値を上回り、目標値を達成した。
- 「にぎわいと活力ある魅力的なみち・まちづくり」については、全ての事業で現況値を上回っている。

4 外部有識者（デジタル田園都市構想総合戦略推進委員会）からの意見

- SNSの特性として、興味のない内容は閲覧してもらえないため、市のSNS発信について、関心の低い層が無意識に見入ってしまうような発信の工夫ができると良い。また、子どもへのアプローチや広報・プロモーション課との連携した周知を検討していただきたい。
- 公式キャラクターを作成し、各イベントでPRを行い、市への愛着を醸成できると良い。
- アクリルスタンドやトートバッグなど、市で作成したグッズを大型ショッピングモールなどで販売してはどうか。
- 創業支援制度について、市内での創業数を把握し、より実態に即した支援を行うため、金融機関との連携を図れると良い。
- 地域ブランド認証事業について、認知度を高めるため、アプローチ方法を変えるなど、広報・プロモーション課と連携し、市民向けにPR戦略を検討できると良い。
- 村山大島紬を新たに生産することは難しいが、デザインを活用した取組などを検討し、後世に残せると良い。
- 援農ボランティアについて、需要があると思うので、東京アプリの農業ボランティアメニューのようなデジタルを活用したマッチング方法ができると良い。また、農業希望者に届くよう周知していくことが大切である。
- 観光農園数を維持するため、後継者や存続方法について、話し合える環境があると良い。
- ロケーションサービスについて、テレビやドラマの影響力は大きいため、情報発信のハードルは高いが、うまく活用できると良い。
- 文化財の観光資源について、歴史散策コースなどが十分に周知されておらず、観光資源が活用しきれていないため、二次元コードが載っているチラシを作成して、公共施設に掲示するなど積極的に情報発信を行ってほしい。

【基本目標 2 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる】

1 数値目標

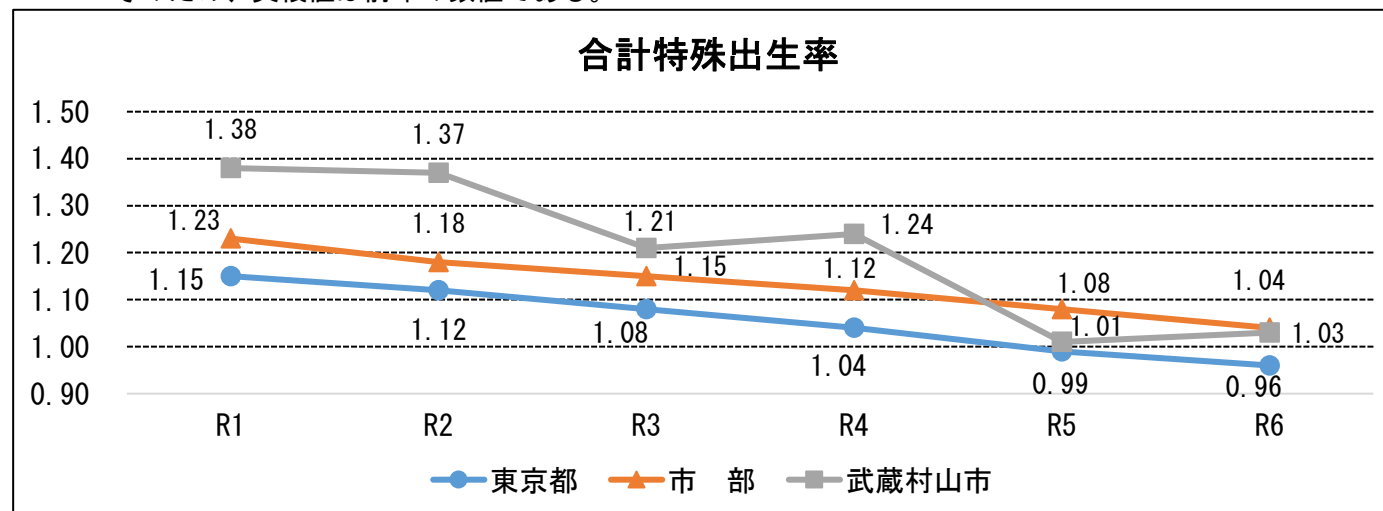
指標	現況値	R7	目標値 (R7)	評価
合計特殊出生率	1.55	1.03 (*)	1.60	△
「武蔵村山市は安心して子どもを産み育てることができるまちだと思う」人の割合	72.1%	調査未実施	80%以上	—

【指標の評価について】

- ◎：目標値達成（目標値以上）
- ：現況値超目標値未満
- △：現況値以下
- ：数値が判明していない等

※ 現況値：平成 30 年度

(*) 合計特殊出生率については、例年、冬頃、区市町村別の数値が公表される。
そのため、実績値は前年の数値である。



2 具体的施策（4施策20事業）

施策	評価					
	重要業績指標 (K P I)	主要要因（C S F）				
		◎	○	△	—	計
結婚・妊娠・出産・子育てへの支援	◎	5	1	2	0	8
子育てしやすいまちづくり	—	2	0	2	2	6
子どもの知力・体力の向上	◎	0	0	4	0	4
教育環境の整備	△	0	0	2	0	2
合 計	—	7	1	10	2	20

3 総論

【総括】

- 年少人口及び将来的な生産年齢人口の増加を図る視点から施策を展開している。
- 数値目標に掲げる「合計特殊出生率」については、現況値と比較すると減少しており、49 区市で 23 番目の数値である。（令和 6 年度実績）
- 数値目標に掲げる「武蔵村山市は安心して子どもを産み育てることができるまちだと思う」については、K P I が計画策定時のアンケート調査項目であり、令和 7 年度はアンケート調査を実施していないため、数値が不明である。
- 現況値と比較すると、半数の事業が現況値を下回っている。

【施策別】

- 「結婚・妊娠・出産・子育てへの支援」については、K P I の実績値が目標値を達成した。
また、多様な保育サービスを継続し、半数以上の事業が目標値を達成している。
- 「子育てしやすいまちづくり」については、地域住民等の協力を得て、2 事業が目標値を達成した。
一方で、現況値を下回った事業が 2 事業であった。
- 「子どもの知力・体力の向上」については、K P I の実績値が目標値を達成した。
ただし、その他事業については、全ての事業において現況値を下回った。
- 「教育環境の整備」については、全ての事業において現況値を下回った。

4 外部有識者（デジタル田園都市構想総合戦略推進委員会）からの意見

- 男性職員の育児休業取得について、組織の中で、職員自ら申し出るのは難しい面もあると思うので、対象職員に対しての制度の個別説明はとても良い取組である。
- 全国平均が 40%程度である中、市役所男性職員の育児休業取得率が 52.5%というのは、素晴らしい実績である。
- 放課後子供教室について、高齢化など担い手不足が懸念されるが、地域の子どもと大人が交流できる大切な機会である。将来、放課後子供教室に来ていた子どもが大きくなり、支援していた方が支えられる側になることなども期待されるため、地域の方に積極的に参加していただき、後世に残るよう事業を継続してほしい。
- イベントを始めとした市全般の情報について、子どもから聞くことが多いため、子どもに特化した情報発信が有効であると考え。
- 不登校の要因のひとつとしてヤングケアラー問題があり、把握しきれていない潜在的ニーズがあると考え、今後、実態調査に基づき、良い施策につなげていただきたい。

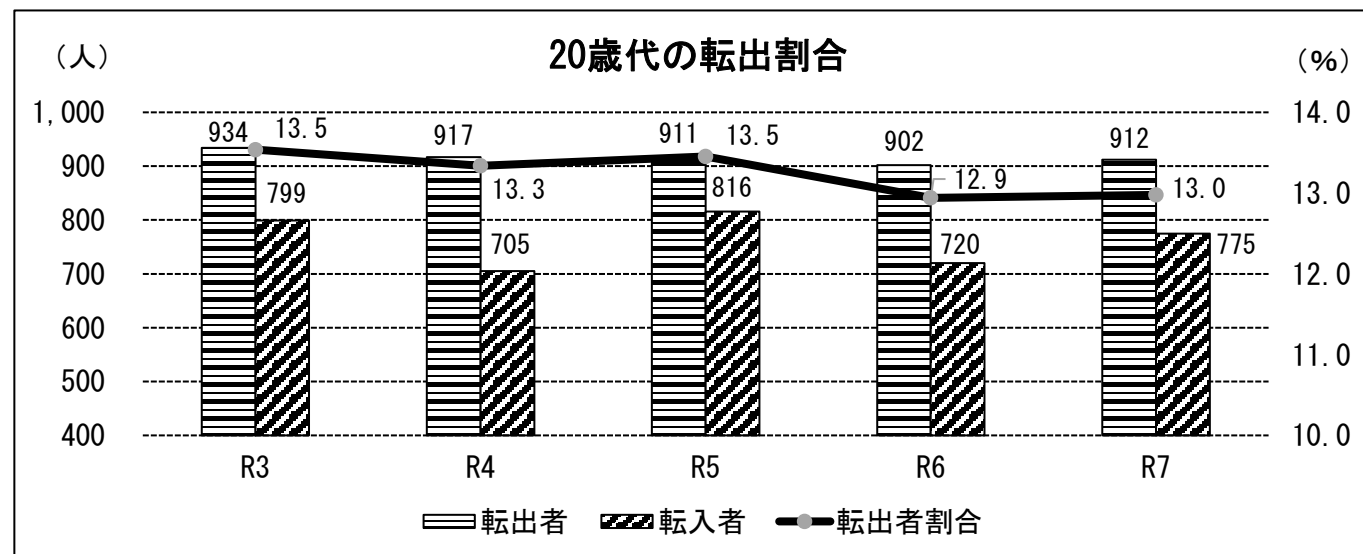
【基本目標3 誰もが安心して暮らし続けられる地域をつくる】

1 数値目標

指標	現況値	R7	目標値 (R7)	評価
これからも本市に住み続けたいと思う人の割合	31.1%	調査未実施	36.1%	—
20歳代の転出者割合	12.6%	13.0%	11.6%以下	△

【指標の評価について】
 ◎：目標値達成（目標値以上）
 ○：現況値超目標値未満
 △：現況値以下
 —：数値が判明していない等

※ 現況値：平成30年度



2 具体的施策（3施策14事業）

施策	評価					
	重要業績指標 (K P I)	主要要因（C S F）				
		◎	○	△	—	計
交通利便性や買い物環境の向上に向けたまちづくり	—	1	0	1	0	2
安心して暮らせるまちづくり	◎	1	1	0	0	2
健康でいきいきと暮らせるまちづくり	○	5	1	4	0	10
合 計	—	7	2	5	0	14

3 総論

【総括】

- 「住み続けたい」と思うまちづくりを進める視点から施策を展開している。
- 数値目標に掲げる「これからも本市に住み続けたいと思う人の割合」については、計画策定時のアンケート調査項目であり、令和7年度はアンケート調査を実施していない。
- 数値目標に掲げる「20歳代の転出者割合」については、昨年とほぼ同値で、依然として転出超過の状態が続いている。
- 現況値と比較すると、半数以上の事業が現況値を上回っている。

【施策別】

- 「交通利便性や買い物環境の向上に向けたまちづくり」については、K P I が計画策定時のアンケート調査項目であり、令和7年度はアンケート調査を実施していないため、数値が不明である。
- 「安心して暮らせるまちづくり」については、防災対策を計画的に行ったため、K P I の目標値を達成するとともに、全ての事業で現況値を上回った。
- 「健康でいきいきと暮らせるまちづくり」については、K P I の実績値が現況値を上回った。
なお、半数以上の事業において、現況値を上回っている。

4 外部有識者（デジタル田園都市構想総合戦略推進委員会）からの意見

- 避難所の環境整備について、熊本県の地震を受けて、間仕切りや簡易ベッドの重要性を認識した。災害に備えるため、食品や資器材など地道に準備できると良い。
- 防災マップについて、子ども向けに特化したものがあれば良い。また、発災時に使用できる井戸の情報などについて、広域的な周知を図っていただきたい。
- 健康教室及びお互いさまサロンについて、目的は異なるが類似している事業だと思ったので、参加者数など増加のため、所管課同士の連携を強化してほしい。
- シルバー人材センターは仕事だけでなく、人とのつながりや自分の役割などを作る場であると考え。屋内などの作業が充実すれば、会員の増加につながるため、検討していただきたい。
- 運動施設について、他自治体では、昼間デイサービス、夜間はジムとして、施設を有効活用している例があったことから、武蔵村山市についても、活用できる施設があれば検討をしてほしい。
- 地域生活支援拠点等整備事業について、相談実績も多く、支援拠点を設置して良かったと考える。需要が高まれば、専門職の配置も考える必要があるが、事業を継続してほしい。